

2021年2月28日 (No48)

主日礼拝

司会：高崎 晋 奏楽：松村宣恵  
前奏 奏楽者  
讃美歌 85 (二回) 一同  
祈り 司会者  
聖書 イザヤ書35章1~10節  
(旧約聖書1116頁)  
マタイ福音書12章22~32節  
(新約聖書22頁) 司会者  
讃美歌 11 一同  
説教 「荒れ野に、花は開く」  
五味 一 牧師  
讃美歌 296 (1.2.3.4) 一同  
献金と感謝の祈り 一同  
主の祈り 62  
頌栄 キリストの平和が (1.5) 一同  
祝福 一同  
報告

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会 カフェ・ぶらぶら  
・3月3日(水) 午後7時  
ゼカリヤ書5章5~11節  
(旧約聖書1484頁)  
讃美歌 404、474

【次週の予定】

◇レント第3主日礼拝  
・3月7日(日) 午後2時 カフェ・ぶらぶら  
・聖書 ヨブ記1章1~12節  
(旧約聖書775頁)  
マタイ福音書16章13~28節  
(新約聖書31頁)  
・説教 「利益もないのに神を敬うか」  
五味 一 牧師  
・讃美歌 12、581

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 秋山里子  
④ 佐々木実 ⑤ 吉田公子 ⑥ 伊藤知之 ⑦ 山根耕平 ⑧  
岸澤恵美 ⑨ 高崎晋 ⑩ 山本潔 ⑪ 早坂潔

【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (2月21日)	24名 (子2名)	26,082円
祈祷会 (2月24日)	5名	

♪ 本日の讃美歌 ♪

♪ 讃美歌11「感謝にみちて」。作詞、作曲ともドイツ人マルティン・リンカルト(1586-1649)。貧しい桶職人の息子として生まれ、町の牧師に見出されて学校に学び聖歌隊員に、その後牧師となり63歳で世を去りました。生涯は30年戦争と重なり、戦争による荒廃と疲弊は、ドイツ全土を覆いつくし、近隣の牧師がみな死んでただ一人残ったリンカルトは4000人もの葬儀を行ったと伝えられています。この讃美歌は、自分の子どもたちに、食卓の感謝の歌として作ったといわれています。

♪ 讃美歌296「いのちのいのちよ」。作詞はドイツ人のエルンスト・クリストフ・ホンブルク(1605-81)。裁判所の書記官でした。若い頃から恋を唄い、酒を唄い、多くの人に愛唱された詩人でした。後に妻と共に重い病を患い、さらに仕事で旅に出てペストになり、旅の途上で山賊に襲われるようなこともありましたが、そうした苦難の連続の中で、キリストの十字架こそ慰めであることに目覚めていったといわれています。イエスの受難を思いつつ、最後に「感謝をささげよう、愛するイエスに」と歌っています。曲はヴォルフガング・ヴェスニツァー(1629-97)。北ドイツの生まれでツェレの宮廷オルガニストを務めました。

◇べてる関係報告

・3月1日(月) べてる理事会 ニューべてる

頌栄 キリストの平和が

- キリストのへいわが わたしたちのころの  
すみずみにまで ゆきわたりますように
- キリストのゆるしが わたしたちのころの  
すみずみにまで ゆきわたりますように

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

◇主日礼拝 午後2時 カフェ・ぶらぶら  
◇お茶の会 コロナウイルス感染防止のため休会

【先週の聖書から】 「もし、神の子であるなら」 申命記 30:15-20  
マタイ 4:1-11

洗礼を受けたイエスは、ただちに荒れ野に導かれ、そこで 40 日間、試みを受けました。荒れ野の試みは、モーセに導かれてエジプトを脱出した人々が、海を渡ってたどりついた地で起こった出来事と重ねられています。エジプトを脱出した人々が、最初に経験したのが渇きと飢えでした。その時、彼らは躓＝つまずきました。彼らは、彼らをエジプトから解放した神ではなく、奴隷に留めたエジプトの肉鍋を求めました。人間って不思議ですね。

生身の人間にとって、日ごとの糧はいのちの保障です。それが神の存在理由でしょう。聖書はこの問いをイエスに突き付けました。「もし、お前が神の子であるなら...」。この石をパンに変えることが出来るだろう。神に出来ないことはないのだから。そして、お前のまわりの渇き、飢えている者を援けることが出来るだろう。それこそが、神の子ではないか。昔、お前たちの父祖たちが荒れ野で飢えた時、モーセに訴えて天からパンを戴いたように。それが神というものだと。

イエスは、『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる』(申命記 8:3)と、答えました。ここには、そもそも「いのち」はモノではなく、「人と神との関係である」という根本的理解があります。この言葉で、イエスは「神のようになる」ことを退けました。ということは、ここでイエスは、「人の子」＝人間である＝人間でありつづけることを明らかにしました。これによってイエスの十字架への道が暗示されます。

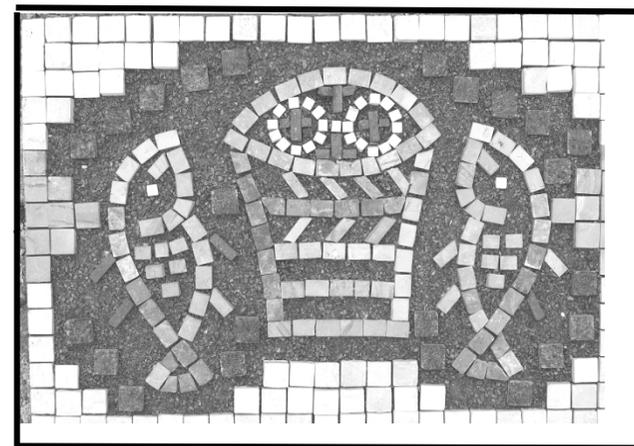
ひるがえって、パンはすべての人の飢え＝経済の問題です。今日、地球上には、すべての人に必要な食料は十分あるといわれています(国連広報センター)。にもかかわらず 9 人に 1 人が飢えているということは、パンの問題は人間の在りよう＝公平と正義の課題であることがわかります。まさしく神の言葉に生きることです。二つ目の試みは、宗教的な奇跡でしょう。人は、困難にぶち当たると人間の力を越えた奇跡的な能力を求めます。しかし奇跡的超能力者の出現が、果たして、あなたを苦勞から解放し、世界に平和をもたらすのでしょうか。

そこから三つ目の試みが生まれます。人類の暦の中で、人々の期待にこたえる超人的といわれる人物の出現は、何を世界にもたらしたのでしょうか。歴史に目を向ける者なら誰でもわかります。悪魔と手を結んで人々を自分にひざまずかせ、自らを偶像化し、礼拝させた権力者たちです。「もし、神の子であるなら」・・・、怖ろしい試みです。しかしこれが神の霊を受けた者に対する試みであり、信者への誘惑です。人間であることの尊さと自由の回復こそ神の祝福です。

日本キリスト教団浦河教会

# 週報

No.48 2021年2月28日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043